

弾きたい、聴きたいモーツァルト

KV310

講師 ピアニスト 久元 祐子

モーツァルトが残した18曲のピアノ・ソナタのうち、短調のソナタは2曲しかありません。

そのうちの1曲KV310は、旅先のパリで作曲されました。青春時代の旅路で残した特異なソナタです。緊迫感に満ちた第1楽章、平安と苦悩のはざままで揺れ動く第2楽章、喘ぐような第3楽章からなる名曲です。この曲を比類ないものにしていく要素は何か、当時の鍵盤楽器のお話なども含めながら、パリでのモーツァルト像と作品の魅力に迫りたいと思います。

(講師・記)



©Katsuo Sakayori

<講師紹介>は裏面をご参照ください。

日時 2017年 12月23日 土曜日 13:00~14:30
受講料 会員 3,240円 (入会金は5,400円。70歳以上は入会無料、証明書が必要です。)
一般 3,888円

*入会金、受講料、教材費等は消費税8%を含む金額です。

- ※ ご入会の優待制度をご利用の方は、お申し出ください。
- ※ 日程が変更されることがありますので、ご了承ください。
- ※ 講師の病気や、受講者が一定数に達しない場合などには、講座を中止することがあります。
- ※ 個人情報は、受講連絡、当社からのお知らせ、企画の内部資料として使わせていただきます。



朝日カルチャーセンター
朝日JTB・交流文化塾

新宿

〒163-0210 東京都新宿区西新宿2-6-1
新宿住友ビル内私書箱22号
tel 03-3344-1945
<https://www.asahiculture.jp/shinjuku>

<講師紹介>

久元祐子（ひさもと ゆうこ）

東京芸術大学音楽学部(ピアノ専攻)を経て同大学大学院修士課程を修了。

ウィーン放送交響楽団、ラトビア国立交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィル、東京フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、札幌交響楽団、神戸室内合奏団、ウィーン・サロン・オーケストラ、ベルリン弦楽四重奏団など、内外のオーケストラや合奏団と多数共演。

知性と感性、繊細さとダイナミズムを兼ね備えたピアニストとして高い評価を受けている。音楽を多面的に捉えることを目指したレクチャー・リサイタルは朝日新聞・天声人語にも紹介される。

ベーゼンドルファー(1829年製)、プレイエル(1843年製)、エラール(1868年製)、ブロードウッド(1820年製)などのオリジナル楽器を所蔵。歴史的楽器を用いての演奏会や録音にも数多く取り組み、それぞれの時代の中で作曲家が求めた響きと美学を迫及する。

2010年、ショパン生誕200年記念年には、全国各地でプレイエルを使つての演奏会に出演。軽井沢・大賀ホールにおいて天皇皇后両陛下ご臨席のもと御前演奏を行う。2011年ウィーンでのリサイタルは、オーストリアのピアノ専門誌の表紙を飾り、ベーゼンドルファー・アーティストの称号を受ける。

国立音楽大学創立90周年記念事業 楽器学資料館ピアノプロジェクトとして2013年に開催されたレクチャーコンサートで歴史的楽器5台を使用したコンサートに出演し、2014年には「黎明期のピアノ〜プレイエル、シャンツ、ブロードウッド」(サントリーホール・ブルーローズ)に出演。

2012年、2014年イタリア国際モーツァルト音楽祭に度々招かれリサイタルを開催。その模様はイタリア全土に放映され好評を博す。本年秋にもイタリア・モーツァルト協会の招きにより、リサイタルを開催。

これまでCD12作をリリース。「優雅なるモーツァルト」は毎日新聞 CD 特薦盤、レコード芸術特選盤に選ばれ、「ベートーヴェン ”テレーゼ” ”ワルトシュタイン”」はグラモフォン誌上で「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」など高い評価を得る。

著書に「モーツァルトのピアノ音楽研究」(音楽之友社)、「モーツァルトはどう弾いたか」(丸善)、「原典版で弾きたい!モーツァルトのピアノ・ソナタ」(アルテスパブリッシング)、「モーツァルトとヴァルター・ピアノ」「ショパンとプレイエル・ピアノ」「リストとベーゼンドルファー・ピアノ」(学研プラス)など。

国立音楽大学教授、日本ラトビア音楽協会理事。

久元 祐子 ウェブサイト <http://www.yuko-hisamoto.jp/>